

Cinema

山田孝之が映画プロデュースに挑戦 『ダイヤモンドナイト』は、人の中にある善と悪のドラマ



『ダイヤモンドナイト』

東京でフリーターをしていた明石幸次(阿部進之介)は父の死をきっかけに実家に戻る。整備工場を営んでいた父は大手自動車メーカーの不正を内部告発したことで窮地に立たされ自殺した。明石は地元で児童養護施設「風車の家」を運営する北村健一(安藤政信)と知り合うが、彼は子供達に優しい昼の顔とは違う裏稼業の夜の顔があり、その仕事に明石を

誘うのだった。「風車の家」に暮らす子供達の一人、奈々は高校を卒業したら父親が迎えに来ると聞かされているが、彼女には秘められた過去があった。

企画、原案、主演：阿部進之介／監督：藤井道人／脚本：小寺和久、藤井道人、山田孝之／プロデューサー：山田孝之、伊藤主税／制作 andpictures / 制作協力 プラスディー (2018年夏公開予定)

「脚本を作る、オーディションで役者さんを探す…。すごく大変だけど、楽しいですね」

俳優・山田孝之が、映画『ダイヤモンドナイト』のプロデュースに挑戦する。映画プロデューサーの仕事は、企画から資金集めやスタッフ、役者のキャスティング、出来上がった作品の配給まで、映画を作り、観客に見せるプロセスの中のたくさんの仕事の管理を担う重要なポスト。俳優として長いキャリアのある山田孝之だが、この作品には自分出演せず、プロデュースに専念するということを発表して話題を呼んでいる。何故プロデュースなのか？

「15歳から俳優として仕事をしてきた中で、自分で現場を改善できることはないか?と思い始めました。そのためにはプロデューサーとして現場に立てるだけの知識や能力を身につけないといけない。そう思ったのは20代でした。それから今まで、俳優として仕事をしながら学んできた中で、周りからも信頼を得て、やっと動けるようになってきた」。

映画『ダイヤモンドナイト』の構想は、主演の阿部進之介が藤井道人監督に声をかけたことから始まり、そこに山田が参加する形になった。「二人は、『昼と夜の話をしたい』と話している。僕はそこに『善悪』というアイデアを入れたほうがいいと提案しました。善と悪って、自分の中しかないものじゃないか。誰もが喜ぶエンタテインメント映画にはならないかもしれないけれど、映画を通してそんなことを考えて、自分と向き合える時間ができたら素敵じゃないですか?」

俳優としても多忙を極める日々の中でこなすプロデュースの仕事は、とにかく激務。「正直、頭がショートするくらいの時もありました(笑)。すごく大変だけど、脚本を作ったり、楽しいですね。自分は受ける側で経験がありますが、オーディションがとても楽しいんです。特にヒロインの奈々は、僕が作ったキャラクターなので、どうしても自分で選ばせてくれ、と」。奈々は児童養護施設「風車の家」に暮らす高校生の少女。主人公の明石は奈々に惹かれる自分の心と、世間の定める善悪とのギャップに葛藤することになる。

「とても大事な役で、見つかった役者さんは雰囲気もぴったりで芝居も上手くて、『来た!』って。思わず自分の立場をわすれて、泣いてしまいました」。

トランクインは2017年11月。秋田ロケで撮影される。

「みんなの芝居を見るのが楽しみです」。

Profile 1983年生まれ。鹿児島県出身。1999年に俳優デビュー。2005年の映画『電車男』で主演を務める。近作に映画『闇金ウシジマくん ザ・ファイナル』、『ジョジョの奇妙な冒険 ダイヤモンドは砕けない 第一章』などがある。主演映画『ハード・コア』が2018年に公開予定。



左から、監督の藤井道人、主演の阿部進之介、山田孝之。

Music

宝塚トップスターから、女優、シンガーに 凰稀かなめのファーストアルバムが発売

宝塚の男役トップを経て、大劇場でのキャリアを活かしながら、舞台、コンサート、そして女優として活躍中の凰稀かなめ。テレビ朝日系ドラマ『トットちゃん!』では、主演・松下奈緒の親友、エミー市川役で出演し、お茶の間にも親しまれる存在に。2017年11月に発売された待望のファーストアルバムは、そんな凰稀かなめの幅広いエンターテインメント性を実感させるラインアップ。歌謡曲、ニューミュージック、Jポップのカバーとオリジナル、そして宝塚時代の曲を、時にクールに、時にメロウに歌い上げる。限定版には、コンサート『シャンソンの黄金時代2017』のステージから2曲、そしてレコーディングスタジオでの映像が収録されている。

Profile: 神奈川県生まれ。2015年2月宝塚歌劇団を退団後、女優として活躍。ミュージカルやコンサートの舞台に立つほか、TVドラマにも出演。2018年4月 ミュージカル『1789 バスティーユの恋人たち』でマリー・アントワネット役。2018年6月 銀河鉄道999 40周年記念作品舞台『銀河鉄道999』にクイーン・エメラルダス役にて特別出演。オフィシャルサイト <https://kaname-ouki.jp/>



「Again アゲイン」
通常盤 UICZ-4412 3000円(税込)
限定盤 (CD+DVD) UICZ-9100 5000円(税込)
<http://store.universal-music.co.jp/artist/ouki-kaname/>



Stage

能楽師・林宗一郎、「能をもっと知りたい、 知ってもらいたい」思いを舞台に

京都を拠点に活躍する能楽師・林宗一郎は、多くの舞台を勤める傍ら能の普及のためのイベントにも精力的に取り組んでいる。能に親しみのない人に発信することで、発見も多いそう。「能が初めて、とおっしゃる方から、こちらが想像もつかないような質問を受けることがあります。そのような時、能の表現の可能性はまだまだあるのだと教えられます」。2013年から自主公演「宗一郎の会」を主催。これも林宗一郎にとっては能の普及と学びの舞台。「能を知ってほしい、観てもらいたい…そんな会であると同時に自身の研鑽の場。命懸けで舞台を務めてこられた師匠や先輩方に舞台を通して教えを受けたいと願っています」。

能は分業で演じられる。「シテ方」と呼ばれる林の役職は主人公を演じるが、西洋演劇での主役とはちよと違う。「シテは主人公ではありませんが、能の場合、舞台上の役者全員で一つの作品を作りあげ、届けることが大切。シテは波に漂う舟のような存在、囃子の演奏や謡に上手にのることが必要です。物語と舞と音楽の調和。それは能楽師が600年前から受け継ぎ、現代に出現させる非日常の時間でもある。「先日『あなたにとって芸術とは何か?』という質問を受けて『己の心を映し出す鏡である』と答えました。観客の皆様それぞれが演目のテーマに対して向き合い、今の自分を見つめる…そのような非日常の時間をお過ごしいただきたいと思います」。2017年に林家の当主となった。さらなる活躍が期待される。



撮影: Stéphane Barbery

Profile 1979年生まれ。観世流能楽師 林家十四世当主。父・十三世林喜右衛門、二十六世観世宗家・観世清和に師事。2013年より自主企画公演「宗一郎の会」を開催。平成26年度「京都市芸術文化特別奨励者」認定。京都観光おもてなし大使。

2018年2月12日復曲会「吉備津宮」、6月9日MUGEN能(ともに京都観世会館) 詳細は「林宗一郎」のWebサイト参照。
<http://hayashi-soichiro.jp/>

NEXT BREAK Profile

Vol.12

キャスティングディレクター 杉山麻衣さんが、いまイチオシの俳優をプロフィール。新しい才能をいち早くキャッチ!

松本穂香

NHK連続テレビ小説『ひよっこ』で、集団就職で上京してきたメガネ少女・青天目澄子を演じ、その天然キャラぶりに目が離せなくなる存在感を放った。「関西出身ということもあり、笑いを取りに行きがちです(笑)。綺麗や可愛いとかの褒め言葉より、面白いと言われる方がうれしいかも」。美少女ぶりからは想像できないが、意外やお笑いの素質も十分。それを見込んで個性的な役をもらうことが多いが、「今度は、特徴のない、どこにでもいるような女の子を演じてみたい。そういう役の方が難しいだろうなと思いつつも、挑戦できる機会があればうれしいです」。今は大阪の家族と離れて暮らす。「家族の大切さは東京に来てからすごく感じています。一番の味方で、一番のファンでいてくれる。『ドラマ観たよ、良かったよ』って、おばあちゃんが電話をくれたり、そういう些細なことが一番の励みになっています」。



Profile 1997年大阪府生まれ。2015年にデビュー。WEB公開のショートムービーLOTTE SWEET FILMS『MY NAME』で初主演、2016年『ヨミガエラセ屋』主演で初舞台。『ひよっこ』、『下北沢ダイハード』ほか、TVドラマ、映画に出演多数。映画『世界でいちばん長い写真』は2018年夏公開予定。



キャスティングディレクター
杉山麻衣のコメント

ただ可愛いだけじゃない、クセになる顔立ち。そして、もっと見たいと思わせるようなクセになる芝居をしている。松本さんを見るたび、そんな印象を受けます。コメディエンヌとしての魅力はすでに様々な作品で発揮されていますが、それとはまた別に、淋しさや憂いを帯びた表情も素敵で、その振り幅にこれからのさらなる可能性を感じます。他の同世代の女優さんがやらないような作品やキャラクターに積極的に挑戦して欲しいです!

Profile 愛知県出身。主に映画や舞台のキャスティングを担当。最新作:『全員死刑』(小林秀貴監督)が2017年11月18日より全国ロードショー。『ダイヤモンドナイト』(藤井道人監督、p6記事参照)が2018年公開予定。